



「柳城」第39号 発行所 名古屋柳城短期大学 名古屋市中区明町2-54 発行者 田浦 武雄

創立百周年を前にして

学長 田浦 武雄

来年の一九九八年は、柳城学院にとっては、創立百周年の記念すべき年にあたっている。そのための記念事業についての計画をすすめている。

省みると、一八九八年（明治三十一年）に、カナダ聖公会の宣教師マーガレット・ヤング女史が、名古屋白壁の自宅で、保育養成を開始し、柳城学院創設の端緒となった。同女史にとっては、この仕事は、当時として大きな決断であったと思われる。

一九九〇年（明治三三年）の教育勅語の公布にみられるように、国家主義が台頭し、キリスト教の伝道や教育にとっては、逆風の状況がたかまっていた時であったから、ヤング女史の仕事にも、多くの障害があったと思われる。

一八九九年に幼稚園が開設され、柳城幼稚園と名づけられた。名古屋城のことを柳の城とよんだということで、柳城の名はそれから取られたようである。ヤング女史が設立した保育養成所は、一九一〇年になって、柳城保姆伝習所と名づけられ、一九二四年に柳城保姆養成所と改称された。

第二次大戦時、養成所と幼稚園が焼失する試験を始め、多くの困難をのりこえ、今日の発展をみるにいたった。この間の教職員の努力に、深い敬意を表したい。

一九五三年（昭和二十八年）に、柳城女子短期大学が開学し、歴代の理事長、学長をはじめ、教職員の協力によって発展し、本年三月迄の卒業生は、三九六五名を数えるにいたった。短期大学設立以前の保育養成所等の卒業生三二八名を含めると四二八三名を数えることができる。



短期大学の卒業生も当初は、二〇名代で、一九六八年から四〇名代となり、七五年から七〇名代、七七年から一〇〇名代、八一年から一五〇名代となって



いる。

附属幼稚園は、一八九九年に柳城幼稚園が設けられ、一九二八年に瑞穂幼稚園が、一九七八年に豊田幼稚園が、それぞれ設けられ、三園を合せると、多くの卒園児を送りだしている。

一九九六年（平成八年）四月から、従来の柳城女子短期大学の名称を、名古屋柳城短期大学に改称した。名古屋という地名を冠した方が、学校が存在が分かりやすいという判断によると思われる。

一九九五年末ころから準備にかかった専攻科設立の計画のうち、保育専攻（二年課程）は、九七年四月から発足した。学位授与機構の承認を得ることができたことにより、四年制大学での一六単位を含め、所定の単位を取得することにより、学士（教育学士）の学位を得ることができるようになった。

学位授与機構というのは一九九一年に文部省の組織として設けられた組織で、国公私立大学や大学院以外の教育機関で学ぶ者で、学位を希望する者に対して、審査の上学位を与える組織であり、学位の門戸が広げられた。教育学士の学位を取得し、所定の単位を充たすことにより、幼稚園一種の免許状が、専攻科の終了者にも、取得の道が開かれることになる。専攻科の設置は、本学の歴史の上では、画期的なことだと言える。

専攻科のもう一つの介護福祉専攻は、九八年四月の開設をめざして、準備中である。

保育専攻は、定員一五名であるが、学位授与機構からの承認が、本年一月末であったので、それから入学案内などの広報活動に入った。時間的制約はあったが、六名の入学者を得た。保育専攻への進学は、短大の二年生はもちろん一年生も、将来の進路をきめるさいの選択肢の一つとして考えていただきたい。また卒業生の方も、再び学習の意欲をもつ方には、専攻科の扉は開かれている。

本学を含め柳城学院が百周年を迎えるにあたり、その足跡を概観した。「愛をもって仕えよ」の建学の精神を、しっかりと体得し、これからの歩みを明るく堅実なものにしていきたいものである。

短大だより

幼 教 ゼ ミ

去る4月25日(金)26日(土)の両日に渡り、恵まれた天候の中

二年生対象の『幼児教育ゼミナール』が「伊良湖ガーデンホテル」にて、実施された。

渥美半島伊良湖岬は、藤村のあの「やしの実」の歌が生まれた風光明媚でロマンあふれる所。ホテルの眼前には、日頃のあわただしさを忘れさせてくれる大海原が広がっている。プログラムでは、そのような自然をまずは、体と心で一杯感じてみようということ、自然散策から始まり、続いてグループ討議が持たれた。テーマは、学生の意見により、よりよい保育者となるため①よりよい実習を行うためには②残りの一年間をどのように送るかというもので、クラスを解体し、十のグループに分かれて話し合われた。又その内容は、二日目の全体会で発表された。話し合いの時点では、教育実習の二年目が始まったばかりであるので各々の実習を通しての体験談が披露され、共通の問題点を発見したり、悩みを分かち合ったりできたようである。又日頃の学生生活について、より充実した楽しい生

活をするため、大学への要望も種々出された。これらは、今後、検討しつつ実施できることからすることになっている。

交流会は、各クラス正副委員長を中心に企画され、全員参加のゲーム大会となり大いに盛り上がった。昨年に引きつづいての教師たちによる出し物も一役買ったところでしょう。か。(可愛い赤ちゃんの学長、女役の男性の先生方の熱演に拍手)

さて、二日目の講演は、元種子島宇宙センター所長・現・宇宙開発事業団の菊山紀彦先生により「子どもたちにどんな地球を残すのか」という主題のもと、百枚近いスライドを通し、宇宙開発の歴



史と現在の状況を身近な問題として興味深くお話し頂いた。学生の感想文の中からは、宇宙・地球といった、大きな問題を日頃、真剣に考えたことはなかったが、毎日の私たちの生活に直結する大切な事柄であるということが気づかされたというものが多い。特に、地球は、地上十六キロメートルの空気がよって守られているすばらしい星であること「ノアの箱舟論」(地球がダメになったら、宇宙に住めばよいという考え)は、本末転倒で、地球を管理することのできない人間が、宇宙を管理することとはできないということ。宇宙食やハイテクトイレの話。向井さんのカイワレ大根の実験。(無重力では毛玉のようになる)。数年後には、実現するという宇宙ステーションについてなど、はてしない夢と現実を見つめる興味のつきない内容に、皆大いに考え感動させられた。又、次のような文も寄せられている。「:中でも、印象的だったのは、五千年前のサハラ砂漠の実態である。あのカラカラの世界のど真中には、川の流れる山の様な土地が宇宙から見えるなんて。そして、砂を透して見ればその下には川があり、かつては「緑の楽園」だったとか。到底、私には信じ難いような話でとても驚いた。(中略)しかし、エジプトのピラミッドもサハラ砂漠も文明が減びてゆく過程や実態に目を背けてはならない。(中略)先生のお話によって、私は地球を見直す事ができた。地球には雲がある。海がある。熱帯雨林がある。風が吹いている。そんな普段、立ち止って感じないような自然をもう一度肌で感じたい気持ちになった。地表から八キロメートルに雲、十六キロメートルまでが空気、その外には真暗な宇宙が存在するのだ。そんな宇宙から見れば小さな層に地球人が暮らし生きている。何とも言い難い不思議さを感じながらも、地球という星に住んでいる自分に感動を覚えた。」

(尾上記)



オリゼミ

5月8日、9日の1泊2日のオリエンテーションゼミナールでは「様々な出会い」があった。まず、天候との出会い、前日から雷雨警報など台風並みの悪天候が予想された。しかし、8日の朝は曇り、約3時間バスに揺られて「孫太郎」に到着した時は、なんと晴れ。青い空と青い海、そして新緑が私達を迎えてくれた。開会のお祈りの後、「孫太郎の自然を楽しむ」新入生の表情は、実に生き生きと輝いていた。

美しい自然のもと、目元、口元を輝かせた新入生の次なる出会いは、戦前の柳城短期大学の卒業生でいらっしゃる井上初代先生であつた。真っ赤なスーツがとても良く似合う、凛としたお姿は、まさに

柳城生の理想の先輩という印象を受けた。

さて、「良き保育者を目指して2年間をどう学びどう過ごすか」というテーマの講演は、井上先生のお優しい雰囲気と口調で、わかりやすく、かつ奥深いものであった。「子ども観」「保育観」「発達観」を軸にお話を進めて下さった。子ども観では、子どもを動詞でみる、形容詞でみるにより、子どもをみる目を育ててゆく。そのことを通して、子どもとの「共感性」「共震性」を分かち合う。共震性というのは、井上先生独自の表現である。保育観では、「皆さん、蟻の行列をじっくり観察したことがありますか？、今から蟻を描いてみましょう」という新鮮な課題提示で始まった。小学校の教育単位は1時間、大学は1コマであるが、幼稚園の教育単位は1日である。1日じっくりかけて蟻を学ぶ、「蟻はどうしてあんなにうまく協力して自分の身体の何倍もある荷物を運べるのだろうか？」「蟻語があるの？それともテレパシー？」といった子ども達の素朴な疑問や好奇心を1日かけて育ててゆくと説かれた。突然の課題に戸惑いながらも一生懸命に取り組んでいた新入生の皆さん、蟻をうまく描けましたか？

このように保育は環境を通して行なわれるが、先生が環境の80%を占めるのではないかと話された。「子どもは、教えたことは学ばない、先生のかもし出す雰囲気から学んでゆく」ことを強調された。先生は、子どもに対して文化のモデルになることを意識して、美しいものを美しく感じる心、美しいことば、生活の基本である食事のマナーを美しく、この事柄を2年間で身につけて欲しいと重ねて強調された。講演を聴く新入生の目は、真剣であった。最後に、発達観では、「くまのプーさん」の素晴らしい訳を紹介しながら、子どもは一直線には発達しない、右、左に揺れながら発達してゆくことを話して下さいました。

夕食の後は、交流会「たくさん、たくさん仲良くなろう」であった。幕あけは、教師陣で創作した「変身家族の紹介」。学長先生の赤ちゃんをはじめとして、可愛い顔、摩訶不思議な顔、素敵な顔に出会った。会場の新入生からは、歓声とアンコールの拍手の渦。この後は、新入生自身の企画による交流の場。自分達で決めて、自分達がおもしろいと思うリクリエーションを展開してゆく新入生の目が再び輝いていた。最後に、「マイムマイム」で全員が作った「大きな輪」は、「たくさん仲良くなろう」を象徴して、熱気と若さが漲っていた。この素晴らしいパワーをさらに昇華させてくれたのは、地元の若人による「孫太郎太鼓」であった。荘厳、雄大な響きに感動した。井上先生の言われた「共震」が会場全体に起こっていた。

さて、2日目の締めくくりは「グループ討議」であった。「より豊かな柳城生活のために」最初の1年間をどう学びどう過ごすか」という簡単そうで難しいテーマを前にした新入生は、昨日、聴講した井上先生のお話を手がかりにして、お互いに素朴な意見を出し合えたようだ。報告会では、8つのグループそれぞれが、自分達のことばで表現し、各グループの個性を打ち出した発表を聴くことができた。

閉会のお祈りの後、再び孫太郎の自然と触れ合い、帰途についた。みんな最後まで元気があった。約35時間を共に過ごす中で、この他にもいろいろな出会いや様々な気づきもあつたであろう。身体全体で感じとり、体験した事柄を大切に、これからの柳城生活をより豊かに過ごしてほしいと願っている。

(初塚記)

補としてあがり、春、秋の時期、アカデミックなもの、教養的なもの

創立100周年キャッチフレーズ

「新しい世紀へ 創造と愛を」

このキャッチフレーズは短大教職員、附属幼稚園教職員、同窓会の役員さん多数の方々から寄せられました応募作品の中から、100周年記念事業準備委員会を選びました。

創立100周年記念の年をいよいよ来年に迎えることになり、今急ピッチで記念日の持ち方、記念行事の内容等を、準備委員会で検討しています。

事業としては、「記念文集」、「写真で見る100年」の発行を考えています。文集の原稿は100名近い方々から寄せられています。

行事としては、創立記念日の感謝礼拝、祝会をどのように持つのが最も大きな問題となり、同窓会の役員さんご意見を頂きながら話し合っています。

又、100周年は創立記念日のメイスイイベントの日だけでなく一九九八年四月から一九九九年三月までの一年間を考え、一年間を通していろいろな行事を行うということで意見がまとまっています。記念講演会、記念音楽会、記念シンポジウム、記念旅行会等々で講演会は二度、音楽会も二度と欲張った計画が考えられています。

講演会の講師の先生も何人か候補としてあがり、春、秋の時期、アカデミックなもの、教養的なもの

など議論が沸いています。音楽会は一度は大きな管弦楽団を招いて盛大に催してはという夢のような企画が話題となっています。

記念の施設、設備につきましては、誠にタイミングよく短大の西側の隣地が手に入ることになりました。約九十四坪で今年の八月末までには受渡が出来る手配が整っています。ここに校舎が建てば、本館と二号館図書館棟をコの字形に繋ぐことができ、全体が大変使い易くなります。この校舎には今短大に不足しているもの他100周年記念に相応しいものが入ることと思います。この中にはかねてからご要望の強い同窓会館もリストにあげられています。

まだ最終的に決まったものはありませんが、主に以上のようなことが準備委員会で話し合われ、具体的な話もかなり進んで来ています。次の学報では、具体的な日程内容についてお知らせできと思っています。

どうぞご期待下さい。

文責 牧岡

附属幼稚園だより

豊田

自然の恵をいっぱい受け



前豊田幼稚園長

青山 道様

バッタ・青虫・かぶとむし等々、自分達で採って来たものを、みんなに見てもらいたくて、得意になってやって来る子供もいます。

青山前園長は、昭和五十三年四月開園と同時に、主任として赴任され、後に副園長・園長を歴任されて、今年の三月を以てご退職されました。当園では、十九年の長きにわたり保育に携わり基礎を築いて来られました。心から感謝申し上げます。四月から、青山前園長の後的大任をお引き受け致しましたが、今まで築いてこられたことを、職員と共に大切に守り育ててまいりたく思っております。

さて、豊田幼稚園は、自然に恵まれた環境にあります。朝の空気はすがすがしく、格別に美味しく感じられます。園から少しまいりますと、畑や青田が広がり蛙の声も聞えて来ます。

朝、門の前で子供を迎えるひとときが、とても楽しみです。

登園途中の道端で摘んで来たお花を手にして来る子供、「先生、お家に咲いたお花なの。」といって、お花の大きな束を抱えて来る子供、ザリガニやお玉じゃくし、



瑞穂

お日さまを相手に格闘



前瑞穂幼稚園長

黒川三枝子様

永きにわたって教育に尽力された黒川三枝子先生が平成九年三月附属瑞穂幼稚園々長を最後に定年退職されました。先生は平成四年四月に本園に就任され、三人の先生と多くの子ども達と共に歩んでこられました。先生のお働きに感謝し、ご多幸とご健康を心より祈りいたします。

瑞穂幼稚園の園庭には、子どもたちが実習生と一緒に作った七夕

柳城

真っ黒に日焼けして

♪ヤッホッホ夏休み♪♪子どもの声が高らかに響く中、神様に感謝しながら一学期を過ごしています。

幼稚園のプール遊びでは、パンツ一枚で子ども達がワニのいかだ

に乗って太陽の水しぶきが虹色になることの不思議さを感じ、砂場ではトンネルを掘ってダムを作ったり「砂風呂だ」と言っている子ども遊びをするなど夏の遊びを繰り広げています。

なんとこのプールは、スポンジを沢山蓄えてスポンジプールに変身する子ども達の人気者なのです。

の飾りが大きな竹に飾られて夜空を見上げています。そんな傍らで子どもたちは砂場遊びに、どろんこ遊び、スポンジプールにと様々な遊びに挑戦し、梅雨の合間からのぞくお日さまと格闘しています。

もちろん無事に終了しませんが、突然大きな声で泣きだす赤組の子ども。喧嘩の始まりでした。あちらこちらから「先生／先生」と声がかかり、先生達も五十五人の子ども達と、お日さまを相手に格闘しています。

過日観劇をしました。心配していた元氣すぎるK君、そしてどの

スポンジを顔や足に身につけたり、周りにブラフォーミング等の遊具を並べお城にみたり、サーキットゲームとしても遊んでいます。

6月中旬には実習生の集中実習があり、楽しい歌やゲームや製作を教えてもらった子ども達はお別れの時、手作りの卒園証書と共に手紙や首飾りのプレゼントを「お姉ちゃん先生、素敵な先生になってね。皆の事忘れないでね。」と言って涙で渡し、実習生もメッセージカードやクッキーやアンパンマンの勲賞をプレゼントしてくれま



子ども達も目を輝かせていました。私達もこんなに子どもを引き付けることができたらと、日々の保育での関わりを考えさせられる一日でもあり、楽しい一時を過ごすことができました。日々の出会いを感謝します。

した。子ども達は、この出会いを心に刻み育つことでしょう。

今年度から新しいスタッフを迎え、真っ黒に日焼けしちよびりそばかすを気にしながら子どもと遊ぶパワー全開の職員です。



同窓会だより

会長 赤石百合子

柳城短大同窓の皆様、お変わりなくお過ごしでしょうか。

柳城短大創立百周年の記念式典を始め、記念事業を開催したいと理事長先生、学長先生を中心に準備を進めておられます。同窓会と致しましては母校が百年の間神様に守られて今日まで着々と成長し、新しい世紀に向かって力強く羽ばたく姿を間のあたりにし、感謝と喜びで一杯でございます。

百年と申しますと言葉では簡単でございますが、百年の歴史の間には云いつくせないさまざまな歩みがあったことと存じます。

「愛をもって互いに仕えなさい」との建学の精神をしっかりと身につけた方々が、柳城を愛し、真剣に折りつつ大学・教師・学生を守り導いて下さいました。尊い生きた証しとして先輩の方の生き方を学びたいと思います。これは単なる昔をなつかしむというのとは意味がちがいます。新しい世紀に向かって歩み出そうとしている今、世の中は余りにきびしく、すさんでいます。世の中の流れに流されるのではなく、自分の名前が上げられ

長い間ありがとうございました

三月三十一日付で六名の方々が柳城学院を定年退職されました。長期間にわたり、学院を支えていただき、今日の柳城に育てあげいただきましたことに対し限りなく感謝いたしますとともに、いつまでもお元気であられますようお祈りいたします。

なお重松先生には称号記規程に基づき名誉教授の称号が贈られました。心からお祝いたします。



名誉教授
重松うた子様



前講師
石原喜代子様

この三月、愛する柳城短大を退職いたしました。思えば昭和四十九年、それまで務めていた立教女学院を退職、名古屋へ転居することとなり、その際、東京の司祭のご指示で参りましたのが柳城短大のチャペルでもある聖マタイ教会でした。神様のご計画でしょうか。その年から柳城の教員として迎えられる二十三年の年月が流れました。今、振り返りますと楽しい思い出ばかりが心に浮かびます。

人生の多くの年月を聖公会学校で祈りの中で学生と共に学べたことをとても幸せに思っております。いたらぬ私を支え、励まし、何時もあたたかい手を差し伸べて下さった教職員の皆様、又、卒業生、在学生の皆様、本当に有り難うございました。

感謝



前会計課長
河合 幹男様

柳城学院も、いよいよ来年は創立百周年の記念ある年を迎えることとなり、感激も一入です。

省みれば私が本学に就職した時は、丁度八十周年の記念事業の一つとして、豊田幼稚園の開設準備の最中でした。それから本館の新築を始め、五年毎に教育施設の向上等、数々の事業に携わって来ました。この間二十年近く微力ながらお手伝いさせていただき大変嬉しく思います。専攻科も認可され益々のご発展をお祈りいたします。



前就職課長
高田 澄子様

母校での仕事を終えて複雑な気持ちです。気付かぬうちに、四十年近い時の流れ、移り変わりの中、ホーキンス先生、坂東先生を始めとし、六名の学長との出会い、数多い教職員の方々、学生、担当した授業、音楽リズム、ゼミ、実習等での係わり、又授業以外での二年生の担任、就職、一人一人違った立場で出合う、楽しさ、難しさがあります。でも今となれば、何事もみな貴重な思い出なのです。

入試状況

短期大学は、制度創設以来、特に女子の高等教育の場として大きな役割を果たしてきましたが、近年における国際化・情報化の進展、生涯学習社会への移行など、社会の変化や女子学生の四年制大学指向の高まりなど、短期大学をめぐる状況は極めて厳しいものがあります。

我が国の十八歳人口は、平成四年度をピークに減少し、平成二十一年度までは減少傾向が続くと見込まれております。一方で、高等教育への進学意欲は急速に高まってきております。高等学校新規卒業者の大学、短期大学への進学率は、平成二年度には四九・二％であったが、平成八年度には五四・四％に達しております。中でも女子の四年制大学への志願率の高まりが顕著であり、平成二年度の一九・七％から、平成八年度には二八・七％となっております。このような進学意欲の高まりの中で、進学率についても、平成二年度と平成八年度とを比べると、大学、短期大学への進学率は三六・三％から四六・二％に、高等専門学校を含めると三六・八％から四六・八％に、さらに専門学校を含めると五三・七％から、六六・二％に

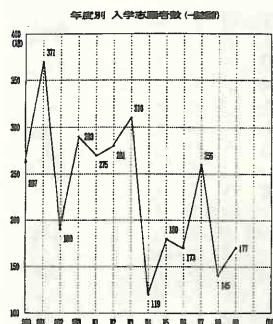
まで上昇しております。このような状況を踏まえ、本学では、教育内容・方法の在り方を、更にその見直しを行い、魅力ある短大の創造を目指して、自己改革へ努力を続けております。

その一貫として、①入試に関する各種情報の公開、②入学後のカリキュラム、③卒業後の就職状況の公開等を積極的に行い、受験生へ情報を提供しております。

また一方、改革の一貫として、平成九年度から、専攻科保育専攻（二年課程・定員十五名）を設置しました。本専攻は、国の機関である学位授与機構の認定を受けた専攻科であり、種々の条件はありますが、本専攻科を修了すると、学位授与機構から「学士」の学位が授与されます。

このような状況の中で、引き続き、改革並びに入試改革を進めていきたいと願っています。（教務課）

※進学率等数字は学校基本調査による。



教職員人事異動

退職

短期大学 専任教員

重松うた子 教授
水野 信子 助教授

短期大学 専任職員

高田 澄子 就職課長

附属幼稚園 専任教員

青山 道 豊田園長
大橋奈美恵 瑞穂主任
本多 純子 瑞穂教諭

西頭三雄児 教授
石原喜代子 講師

河合 幹男 会計課長

黒川三枝子 瑞穂園長
中根由紀子 柳城主任

採用

短期大学 専任教員

成田 朋子 教授
齋藤久美子 助教授
鈴木 裕子 講師
水野 信子 特任助教授

短期大学 専任職員

宮嶋 英一 就職課長
大澤 弘毅 教務課

附属幼稚園 専任教員

関 俣子 豊田園長
夏目 恒雄 瑞穂園長兼任
岡田 香 瑞穂主任
先田 泰子 柳城教諭

初塚真喜子 助教授
中根 淳子 講師
西頭三雄児 特任教授

水谷健一郎 総務課長

砂田奈美江 豊田教諭
竹之内直恵 瑞穂教諭

昇任

短期大学 夏目 恒雄 助教授から教授
短期大学 野々恒文成 助教授から教授

就職状況

本年度の就職状況はいへん厳しく、三月末現在での就職率は、八〇・二パーセントでした。

平成八年度の卒業生は一八一名で就職希望者は一七二名、そのうち就職できたのは一三八名です。

就職を希望する学生の五人に一人は就職できないという状況でした。しかし、この就職率低下の現象

は、本年度突然生じたというものではありません。ここ数年の就職率の変化を見ますと、

・平成四年度 100％(保育系92％)
・同 五年度 94％(保育系90％)

・同 六年度 98％(保育系88％)
・同 七年度 92％(保育系84％)
・同 八年度 80.2％(保育系79％)

と、低下の一途をたどっています。求人数は例年ほとんど変わらないのですが、何度受験しても決まらないという学生が増えています。

求人側からは、ピアノ・絵画・リズム・作文力、礼儀・作法などは就職できないという状況でした。

しかし、この就職率低下の現象を指摘する声が届きます。

就職率を上げるにはどうすればよいか、今後要因を分析し、取り組みを強めていきたいと考えています。

平成8年度就職状況報告

(平成9年3月31日現在)

内 訳		採用 決 定 者	
幼 稚 園	公	0名	57名
	私	57名	
保 育 園	公	11名	67名
	私	56名	
施 設	公	0名	3名
	私	3名	
企 業		2名	
臨時保育母	公	4名	9名
	私	5名	
合 計		138名	

就職率 80.2％
(保育系 79.0％)
採用決定者数 138名
進学率 3名

2学年総数 181名
就職希望者数 172名
(内保育系 136名)